

女川町復興まちづくり住民説明会（清水仮設集会所） 議事録

日 時：平成24年1月29日（日） 10：00～12：00

場 所：清水仮設集会所

対象者：

出席者：女川町 須田町長

復興対策室 赤間室長、柳沼参事、西尾係長、鑑氏、木村主査、神山事務員
水産課長、建設課長、税務課長、町民課久坂氏

1.挨拶 須田町長

2.資料説明：復興対策室 柳沼参事

- ①基本的な考え方
- ②断面図（案）
- ③高台移転候補地（案）
- ④まちづくりのスケジュール（案）
- ⑤具体的復興事業の概要
 - ・災害公営住宅整備事業
 - ・防災集団移転促進事業
 - ・漁業集落防災機能強化事業
- ⑥防災集団移転促進事業による移転者の再建収支試算（想定）

3.意見交換（Q；住民、A；町役場）

- Q. 代替地について、これまでより広い面積は可能なのか。
A. 100坪以内であれば可能になると思う。
- Q. 今回土地を購入して、町を離れている息子のために、土地の形で寝かせておくことは可能か。
A. それはできない。基本的には住宅地造成終わったら、土地の提供、買い上げしていくなかで、早く建てる、というのが今回の制度。
- Q. 土地を購入する場合、これまでの近くに住みたい場合、優先してもらえるのか。
A. ルールを決めるのはこれからになる。
地域性にも配慮しつつ、公平性、早く確保したいという方のニーズには応えられるような方法を考えていきたい。
- Q. 災害復興住宅に住むことになると思う。家賃、光熱費等の出費が発生するので、年金生活でやっていけるか不安がある。
A. 家賃の軽減については、生活再建の中でスタートの負担がいくらかでも軽くなるように考えていきたいと思っている。町としてどこまでやれるかというのはこれから数字を詰めていく。
- Q. 2月に意向調査があると聞かすが、それぞれの事情があると思うので、それに合わせた復興計画、住宅の購入や公営住宅にどのように入ったら良いかというのも説明してほしい。
A. 各世帯の意向を、カルテみたいな形で作る。相談員として再建の方法を説明できるスタッフを用意してやっていきたい。
- Q. 電車の来ていたお墓はどうなるのか。かさ上げた時に斜めになるのか。
A. 何とかうまく工夫してやっていきたい。もう少しっていく中で細かく詰めながらやっていく。
- Q. 石浜は居住エリアに入っている。しかし高台がない。石浜で70%以上の人が高台に住みたいと希望している。そこはどのように考えていったらいいのか。
A. これは絶対ということではなくて、地区ごとにまとまってこうしたいというのであれば、その方向で町として努力するのは当たり前だと思う。高台の造成ということを大原則にしていくが、その範囲でもうちょっと造成したらとかということは検討の余地はあるかと思う。

- Q. 黄色の区域は、個人分譲用地なのか。
- A. 配置については今後具体的に決めていく。避難場所の整備をするので、万が一津波が来たときはどこにいても逃げる。いくらでも高いところに行って、落ち着くまで様子見るというのが、大前提だと思う。
- Q. 津波警報が出たら、総体に行かなければならないのか。ほかに避難場所をつくるのか。
- A. 津波ということに限ると、まず海のほうに近づかないというのが大原則になる。
- Q. 年配者への配慮は大丈夫か。夜、雪が降っているようなときの避難場所も考えてほしい。
- A. 家が万が一倒れたとなっても、そこで数日間、少なくとも救援が入ってくるまでの間何とかできるような建物、あるいは備えは、各拠点には配置していくということになる。
具体的にはこれから決めていく。
- Q. 災害公営住宅の完成は25年以降のものがある。現在の仮設住宅はそれに対応できるのか。
- A. 仮設住宅は1年ごとの延長で対応できると思う。借り上げ仮設住宅については国方針が出されていない。最低限の期間対応できるように引き継ぎ要請していく。
- Q. 現在住んでいる場所でも、かさ上げする計画になっている。移動しなければならないのか。
- A. 移動は必要になる。全体の動きと合わせて調整していくようになると思う。
- Q. 復興住宅が、4階か5階くらいのマンションタイプにという話だが、高齢者や障害者への配慮はどうなるのか。
- A. バリアフリーの建物になり、エレベーター等も整備する。
- Q. 町内すべての集合住宅が4階とか5階とかの建設になるのか。
- A. 主なものはそうなると思う。別な形での建設は今後の検討課題になる。離半島部のほうは漁業地帯で、商売、漁業を営むうえで、アパートでは難しいということがあるので、基本的には小さめの木造の戸建形式ということで検討している。
- Q. 新潟は災害住宅でも、戸建の住宅がある。そういう計画はあるのか。
- A. 漁業集落についてはそのような検討をしていく。全体を管理していくことから、中心部については基本的には集合住宅タイプで考えている。

以 上